

会 議 録

1 会議名

平成28年度第8回三郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 市議会議員と地域協議会正副会長との意見交換会について（公開）
- (2) 平成28年度地域活動支援事業の完了について（公開）
- (3) 地域活動支援事業募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて（公開）
- (4) 自主的審議事項「三郷区における高齢者支援の取組について」（公開）

3 開催日時

平成29年3月9日（木）午後6時22分から午後7時54分まで

4 開催場所

三郷地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：山口典夫（会長）、保坂裕子（副会長）、池内幸雄、伊藤善一、加藤与三郎、
二野 浩、保坂真由美、山田宏文、横尾彰平
- ・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、榎島係長、小林主事

8 発言の内容（要旨）

【小林主事】

- ・竹内副会長、尾崎委員、佐藤委員を除く9名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は山口会長が務めることを報告

【山口会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：二野委員、保坂真由美委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【山口会長】

質疑を求めるがなし。

—次第3報告（1）市議会議員と地域協議会正副会長との意見交換会について—

【山口会長】

次第3報告（1）「市議会議員と地域協議会正副会長との意見交換会について」に入る。

- ・ 2月13日に開催、私と保坂副会長が参加
- ・ 様々な世代と意見交換を行い、多様な市民意見を反映した議会運営を目指すため実施
- ・ 議会は地域協議会の活動に高い関心、市議会の議論にも活用していく
- ・ 合併前上越市15区と柿崎区、名立区の正副会長及び市議会議員が参加
- ・ 高田区、和田区、金谷区、三郷区、柿崎区の正副会長と市議会議員でグループ討議
- ・ テーマと主な意見

①地域における要望や意見など課題の取り上げ方

各団体や町内会長との意見交換、小学校区ごとの意見交換

三郷区地域協議会の自主的審議事項等の取組紹介

②市からの諮問事項についての地域住民の意見集約の方法

施設着工後の諮問について、結論ありきではないかという疑問

③個々の地域に限定されない多くの地域で共通する課題について

地域協議会委員のなり手不足

④若者や女性が市議会に挑戦しやすい環境整備の推進について

なり手不足と同じ問題、議会で今後検討委員会の設置を検討

消防団員のように、企業に働きかけて会議等に出やすい環境を

【保坂副会長】

- ・ テーマと主な意見

⑤審議結果などの地域住民への周知や報告

地域協議会だよりを年何回か発行し、周知や報告

金谷区は中ノ俣など区域が広く、いくつかの地域へ出向き出張協議会を開催

柿崎区は、まちづくりフォーラムを開催し地域協議会の活動を報告

- ・地域によりいろいろな方法や事情がある中で、それぞれ委員が工夫
- ・高田地区や直江津地区と13区では、成り立ちの違いから活動に差
- ・他の区の事情が分かったことから、できるだけ委員へ伝えたい

【山口会長】

説明について質疑を求めるがなし。

—次第3報告（2）平成28年度地域活動支援事業の完了について—

【山口会長】

次第3報告（2）「平成28年度地域活動支援事業の完了について」、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.1により説明。

【山口会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

—次第3報告（3）地域活動支援事業募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて—

【山口会長】

次第3報告（3）「地域活動支援事業募集要項及び審査・採択の基本的なルールについて」、事務局に説明を求める。

【小林主事】

資料No.2、3、4により説明。

【山口会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

—次第4議題（1）自主的審議事項「三郷区における高齢者支援の取組について」—

【山口会長】

次第4議題（1）「自主的審議事項 三郷区における高齢者支援の取組について」、事

事務局に説明を求める。

【小林主事】

当日配布資料No.1により説明。

【山口会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

委員研修について、事務局提案のとおり実施してよいか諮り、委員全員の了承を得る。

続いて、高齢者支援について全体で意見交換を行う。

これまでの、全体の意見交換やグループ討議における意見を資料にまとめた。資料について事務局に説明を求める。

【小林主事】

資料No.5により説明。

【山口会長】

ここまでの説明について質疑を求めるがなし。

「1. イベントを実施する」について、意見を求める。

【保坂真由美委員】

高齢者の体操教室でお手玉など昔の遊びをすると、高齢者はとても上手にできる。高齢者が子どもたちと昔の遊びをすれば、世代を超えた交流になる。その集まりで、竹の子汁や芋煮など季節のものを出すのも一つの方法。一つひとつではなく、組み合わせた方が、多くの参加が見込める。

ただ、畑となるとその場所まで行かなくてはいけない。

【山口会長】

期待される効果はどうか。

【二野委員】

これは、すこやかサロンの中で行うという話か。

【山口会長】

そうではない。すこやかサロンに関する件は除く。

【二野委員】

1番目については、保坂真由美委員の意見のとおりでよい。

来てもらうことが大前提、皆さんが来て楽しめることが期待される効果。

カラオケは公民館だと思うが、カラオケ装置はどうするか。

【山口会長】

それは課題。費用も同様。

【二野委員】

歌の上手な方を講師に迎え、声を出すのもよい。

【山口会長】

人との関わりを持つことで元気が出る、社会的交流により脳が活性化することが効果。
費用、人材確保、実施場所、カラオケ装置が課題。

解決方法について意見を求める。

【伊藤委員】

ゲームは昔の遊びもあるが、脳を活性化するようなテレビゲームもある。高齢者には初めは難しくても、だんだんできるようになれば、次も参加しようという人も現れ、人が来る流れもできる。機器はレンタルもある。

【池内委員】

テーマ1と2は、高齢者支援というよりは、地域活動支援事業になるのでは。

【山口会長】

期待される効果は何か。

【池内委員】

高齢者の支援になるか。

【山口会長】

それは疑問か。

【池内委員】

疑問である。

テーマ1と2は地域活動支援事業。3以下が高齢者支援だと思う。

【山口会長】

分かった。それは課題ということだろう。

【加藤委員】

これをすれば、会長の言うとおりの交流が生まれる。

今度老人会で輪投げ大会をする。午前10時から午後3時までなのだが、こんな長時間では無理という意見がある。

イベントを行うと長時間になってしまう、その問題をクリアできるか疑問。

【山口会長】

方法についての疑問だが、実施することの効果はあると。

【山田委員】

期待される効果は、保坂真由美委員が言うとおりでよい。

課題は、高齢者は天気が良ければ自転車で行かれるが、雨が降れば行かないという場合もある。すると、期待される効果が薄まると思う。

【山口会長】

開催場所は地区公民館だけでなく、町内の集会所など、参加しやすい環境も必要だと。それが課題だと。

【山田委員】

そのとおり。

【横尾委員】

民生委員児童委員の研修では、ひとり暮らしで死亡後10年たって見つかったという事例の話があった。今は人間関係が希薄になり、隣に誰が住んでいるのか分からない状態。高齢化率が30%近くになり、誰が認知症になってもおかしくない時代。民生委員や町内会長だけでなく、地域ぐるみでそのような人の面倒を見る体制を作らないと。

このテーマはまだ活動できる元気な人が対象だが、1つのイベントに数名しか来ないと思う。今のサロンも毎回数名程度。こつこつ続けていけるか。

期待される効果は、年老いていく人たちにコミュニティの場を設けることで、元気になること。課題は、場所や器具のほか、参加者数が少なく長く続くか疑問な点。良い取組ではある。

【山口会長】

高齢者支援は、元気な方の支援と介護サービスや介護施設に行く方の支援がある。病気になった、あるいは施設に入った人の支援は、行政で取組をしている。地域による高齢者支援は、その前の関所や防波堤として、元気な方が主な対象だと思う。要介護や要支援があるが、そうならないようにどう支援するか、と今回提案した。

「2. 畑や料理などを楽しむ」について意見を求める。

【横尾委員】

この地域は農村で育った人がほとんどという推測からの意見。日が長くなれば、朝4時から畑をして楽しむ。健康だからできるのだが、自然と親しむことはいろいろな意味で活力の元になると思う。

会場まで遠い方や、そこまで行けない方からどうやって来てもらうかが課題。課題はいろいろあるが、効果は山ほどある。

【山口会長】

施設に入るような方の支援は、我々では難しいと思う。

【横尾委員】

これからは、要支援1、2の方は国では面倒を見ない、地域でという方針のようだ。

【山口会長】

医療費等が行政を非常に圧迫しており、要支援1、2にならないよう地域で今行われているのが、すこやかサロンや介護予防教室。

畑に出る高齢者がだんだん弱ってきているため手伝うことも、支援の1つかと思う。

課題は、土地の確保、借地料、道具の手入れがあるが、横尾委員が言われたように、体を動かすことで生活習慣病の予防になると思う。

男の料理教室は、イベントの芋煮会にも通じるものがあると思う。

【横尾委員】

大勢の人が来て、わいわいにぎわうようなことはない。一事業で一桁くらいの参加人数でも行うのか。三郷の高齢者は、260から270人だろう。

【山口会長】

今は、65歳で仕事をしている方もおり元気な方は元気。ただ男女問わず、家にいる、あるいは閉じこもっている方をどうするかは、1つの支援のテーマと思う。

ゲームや畑には、場所が必要。公民館が場所のひとつだが、不都合な面があり行政に働きかけ改修や改善が必要になると思う。

次回の会議以降は、行政に何を求めるかを頭に入れ情報収集してもらえばよい。今日は最初のきっかけ。

テーマ1、2は、個々にはいろいろ問題があるがテーマとしては良い。

取り組む内容など、全体について意見を求める。

【保坂副会長】

イベントで何かを作ったり食べたりすると、それを介し会話が弾む良さがある。高齢者支援として高齢者を呼ぶのではなく、その前の段階の人からも来てもらい交流をして老化を進めない状態を作ることがよい。そのための手段として、ゲームや食事、畑など元気だった頃にしていたことをする、子どもたちとの交流を入れるなどの工夫もできる。

課題は、どうやって人を集めるか、土地や会場の問題もある。

皆その世代になるので、こうしてもらおうと嬉しい、こうしたら交流ができてよい、という視点で次のテーマ3、4、5も考えてほしい。

【山口会長】

保坂副会長の意見を踏まえ進める。

世話する人や場所の確保が、どのテーマにも大きな課題になると思う。

テーマ3、4について、意見を求める。

【池内委員】

本当の高齢者支援は、テーマ3から下だと思う。元気な人ではなく、本当に困っている人の支援が必要。

【山口会長】

ではどうするか。

【池内委員】

これから三郷でも高齢化が進むと、介護のために仕事を辞めざるを得ないなど不都合が出て、家庭が困ることになる。本当はそれを町内会がカバーするのが一番よいが、町内会長との意見交換では町内会自体も忙しいということだった。

例えば運動会では4つのチームに分かれている。

【山口会長】

今池、中央、連合、西松野木。

【池内委員】

町内会全体をこの4つに分け1年交代で高齢者支援を担当すれば、4年に1回なので負担にならないと思う。1班に60世帯として年に多くて2回の当番。

【山口会長】

4つのブロックが交代で高齢者をサポートする、例えば買い物支援など。

【池内委員】

75歳以上は免許返納を、という話になっている。

【山口会長】

その期待される効果は。

【池内委員】

1週間と決めて年1～2回、4年に一回。負担なく、各家庭が支援できる。

【山口会長】

費用は。

【池内委員】

費用もばかにならない。

【山口会長】

ボランティアとするか、利用者から手当てを負担してもらうか。

【池内委員】

この国では、真っ当に働き税金を納めていれば何も言われたい。税金を納める若い人がどういう考えを持っているか、若い人に聞かないと。

【山口会長】

市議会も地域協議会も、若い人から参加してもらいたい。

【池内委員】

若い人たちが、自分たちは納税しているのだから市や国で支援を、と言う可能性があるしそれが普通だと思う。

【山口会長】

要は、行政でと。

【池内委員】

そのとおり。

【山口会長】

農家の高齢化について、意見を求める。

【池内委員】

三郷が農村地帯として生き残っていけるかどうか。

【二野委員】

農家の高齢化が進んでいる。米価が下がるのは目に見えており、一俵が9千円ぐらいになるといわれる状況で、1町歩、1町歩5反くらいでは経営が成り立たない。他で稼いで農機具を買うという時代が続いてきたが、それでは駄目だということで、市内でもいくつかあるが、認定農家が会社組織、法人組織ですが、これからは逃れられないと思う。高齢化による地域の農業をどう守るかということ、個々に続ける状況ではないと思う。

【山口会長】

今池でも農地の集団化の動きがある。大規模にしないと、ひとりの手では追いつかない。農地保全や用排水路の管理では、メリットとデメリットがあるが用水のパイプライン化をしないと続けていけない。

65歳を過ぎた人が主流になり農業をしているような現状。

二野委員のとおり、集団化、法人化、公社化の話が今後出てくるだろうと思う。JA

には支援課もあるので、多分そうになっていくと思う。

【山田委員】

高齢化が進むと農業ができなくなるが、子どもが跡を継ぐことはほとんどない。田んぼにも関わらないで、田を売ってしまえという感じ。公社やNPOに任せるようになると思う。

【山口会長】

三郷全体の状況は。

【保坂副会長】

国の補助金が活用でき、耕作者等の負担が少なく済む制度があるうちにと、設立に向けた話し合いを進めている。

【山口会長】

それを一つのスタートラインとして、これからの農業を守り高齢者の負担をなくすのも一つの方法。三郷全体で集団化していくというのは、非常に大きなテーマであるが、避けて通れない問題だと思う。高齢者支援としても一つの方法だと思うが、あまりに大きなテーマだと思う。

【横尾委員】

地球上がグローバル化している中で、日本の農業の良し悪しを言っている状況ではない。

担い手である息子が継がなければ終わりになるので、否応なしに法人化が進むと思うし、そうしないと農地は守れない。今の10アール、20アールの田んぼではやり手がなくなるため、大きいほ場整備をする。ただ法人化された場合、法人が米価を操作することが危惧される。

【山口会長】

農家の高齢化への取組は非常に大きなテーマであり、しばらくは地区の集団化の動向を見ながら、今後意見を交わしたいがいかがか。

【横尾委員】

我々が取り組むには大きすぎる。

【二野委員】

横尾委員のとおり、農家が高齢化して子どもが継がないと終わりになる。農家の親が亡くなっても、子どもたちは他に家を建てており戻ってこないため、田んぼを売却することが現状に起きている。

三郷地域をどうやって守るかと言われても難しく、売却先がいろいろ分かれて所有者が入り組んでしまう、将来的にどうしていったらいいのか。

今までは農作業のため地域で協力したが、そのつながりがなくなりつつあり、それがまた地域の崩壊につながる。そうならないようにしなければならないのだが。

【山口会長】

今は高齢者支援に取り組んでいるが、ゆくゆくは地域をどうやって守るかということが、三郷区地域協議会のテーマになると感じる。

地域活動支援事業の目的は、今は地域活性化や課題解決だが、それを越えたことが出てくるだろう。13区の山間地と同じ空き家などの問題が、平場の集落にも来るだろう。

【二野委員】

若い人たちが、田んぼや畑がなくなったからここに住まなくてよいと思い、別の所に住み空き家が出る。

【山口会長】

そうなったら、高齢者支援の会場を今度は簡単に借りられるかもしれない。

【保坂副会長】

農業で生きていた人たちが今の三郷ができており、農業で頑張ってきた人たちがずいぶんいるので、三郷の特徴としてそのようなことがあるということを気持ちの中に置かないと、三郷のまちづくりや高齢者支援はできない。

【山口会長】

このテーマは今後残していくと。

【保坂副会長】

気持ちの中で、ここは踏まえておくべきと思った。

【山口会長】

今後も話し合うことでよいか。

【二野委員】

イベントなどは、月にどのくらいのペースで考えているか。

【山口会長】

どのくらいがよいか。

【二野委員】

当然ながらスタッフもいる。

【山口会長】

それが課題である。

【二野委員】

月1回2回なのか、毎週1回なのか。

【山口会長】

いずれは地域でサロンを受けざるを得なくなると思う。将来これを受けて、よりよいものを取り入れると回数が増えると思う。ここでは回数は考えていない。

【横尾委員】

イベントの意見は4つくらいしかないが、幅広く考えればもっと出てくる。

【山口会長】

これは前回のグループ討議の意見。まだあると思う。老人会も入ってくる。

【池内委員】

横尾委員がイベントに3人か4人しか出てこないと言われた。スタッフの方が多くなる。

【山口会長】

多くの方から来てもらうような努力が必要。

【池内委員】

来る人はいないと思う。元気な人はする必要がない。

【山口会長】

弱ってきた、家に閉じこもってばかりはいけないから、井戸端会議のようなことをしたらどうかということ。

【池内委員】

元気な時にこのようにしてもらっていたら、本当に支援してもらいたい時にどうするのか。

【山口会長】

この取組による支援を受けて、介護が必要になる時期を先に延ばそうということ。

【池内委員】

ならば自分が役に立つことや、生きがいになることをしないと。

【山口会長】

そのとおり。ゴルフでもよい。

【池内委員】

このような遊びみたいなことをしてもどうか、もともと元気だから

【山口会長】

では、生きがいとは何か。

【池内委員】

お金をある程度もらいながら、人の役に立つ、本当に困っている人をサポートする形が必要。

【山口会長】

介護が必要にならないようにする、1年も2年も先に延ばすために人とかかわり合うようにするのも一つの高齢者支援。人員や費用がかかるので、行政から助けてもらう必要がある。

【池内委員】

ボランティアでは無理。

【山口会長】

ボランティア的要素も含まれる。

【池内委員】

行政の代わりに支援するのだから、その分をもらわなければおかしい。

【二野委員】

市の財政はだんだん厳しくなるため、地域でできることは地域でということだと思う。私の両親は元気であるが、本人は元気だと思っても周りから見ると忘れっぽくなっている。今日も市から、要介護の関係で来てもらった。2人は畑を少しして、ある程度の運動になり張り合いとなっている。これがひとりだと違うと思う。

【山口会長】

そういう人たちを支援するのも一つ。

【二野委員】

専門家によると、80代、90過ぎの人は同世代との交流機会がないため、週に1回でも、月に2回でも、デイホームで交流した方がよいという話だった。

【山口会長】

イベントも、1つの認知症予防だと思う。

【保坂真由美委員】

去年、うちのおばあちゃんが家の中で足を骨折した。病院でも、どこで転んだか聞くと全員が家の中だと答える。外では気を付けるが、家では慣れて気を付けられないから怪我をする。

骨を折ると3か月はかかる。金具を入れてボルトでとめ、次の日から立つ練習をし、3か月たって押し車でトイレに行けるようになり、今は自宅で介護している。

また、私より若い人が脳梗塞になっていた。どうしてこの人かと思うが、若い頃から食事含めいろいろ不規則だったのだと思う。

また、年寄りが集まると知らない人同士でも会話が進むし、認知症の症状も元に戻る。だから参加者が1人や2人でもよいと、何かきっかけを作るだけでも全然違うと思って投げかけるだけでもよい、してみなければ分からない。

おばあちゃんのリハビリでは、できることを全てさせた。そこまでしないと年寄りは寝たきりになる。若くても関係ない、何かした方がよいと思う。

【山口会長】

それを一つのきっかけに、点から線、面へと広がると思う。

私の妻の親は、週1回民間のサロンへ行くことを楽しみにしている。出かけるとなると、セーターを買う、帽子が古くなったなど身なりに気を遣う。外に行くことで、それらをしっかりしなければとなるので、場所の提供自体が一つの高齢者支援だと思う。

【池内委員】

場所の提供ではなく、来てもらうのをサポートするのが支援。

【山口会長】

運転免許証を返納し交通手段がなくなった人を乗せる支援がほしいと、仲間が話していた。整形外科では、毎日通いたいタクシーが高額なので、1週間か2週間に1度しか通院できずなかなか治らないという話を聞いた。

運転代行などのサポートをブロックごとに行うのも一つの支援だと思う。高士地区では買い物サポートをしているようだ。サロンへ行くための支援員を養成するのも良い。

【池内委員】

75歳になると免許の講習があり、検査結果によっては免許更新できないという話なので、ある程度若い65歳くらいの人たちが支援しなければいけないと思う。

【伊藤委員】

三郷地区全体でとなると難しいところもある。町内会とも話し合い、できるものから始めてもよいが、町内では難しいところもあると思う。うまくまとめていければよい。

【山口会長】

時間になったので、次回にまた詰めていきたいと思う。よいアイデアを出してほしい。

—次第5 事務連絡—

【山口会長】

事務局に事務連絡を求める。

【佐藤センター長】

- ・今後の日程：委員研修 4月25日（火）10時30分～ 三郷地区公民館 集会室
次回協議会 5月開催予定、日程は後日連絡
- ・三郷区地域協議会だより3月1日号を発行
- ・地域活動支援事業募集要項：4月1日号広報上越と一緒に配布予定
- ・中郷区地域協議会の意見書の写しを配布
- ・滋賀県立大学による「地域自治の将来に関する意識調査」結果報告書を配布

【山口会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言。

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL：025-522-8831

E-mail：nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。